

南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク概要書

令和 3年6月13日

1 概要

設 立	平成14年7月
設 立 経 緯	静岡県高山植物保護対策検討委員会の提言（平成12年12月）を受け、南アルプスでボランティアが主体となって高山植物の保護対策を実施するため、自然保護団体及び山岳団体等の組織化を検討した結果、当初7団体で設立。
構 成 団 体	NPO法人日本高山植物保護協会静岡支部 静岡県山岳・スポーツクライミング連盟 静岡市山岳連盟 井川山岳会 株式会社特種東海フォレスト 静岡県高等学校体育連盟登山専門部 静岡植物研究会 静岡勤労者山岳連盟 南アルプスの会 以上9団体
会 長	西畑 武（南アルプスの会）
事 務 局 長	米澤正信（南アルプスの会）
設 立 目 的	南アルプスにおける高山植物の効率的かつ永続的な保護対策を推進するためボランティア活動を行うとともに、会員相互の連絡及び交流を図る。
活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者指導及び高山植物保護思想の普及啓発活動 ・自然環境の調査 ・美化清掃活動及び植生保護施設の設置及び修繕 ・会員の資質向上のための研修会等の開催

2 活動概要

(1) 年間スケジュール

月		ネットワーク主催の活動	他団体主催の活動
3月	企画会議 (国・県・市・ネットワーク)		
4月		ボランティア募集	
5月	第1回理事会・総会 講演会	ボランティア決定	
6月		三伏峠植生復元活動 茶臼岳植生復元活動	
7月		オオサクラソウ保全活動 聖平植生復元活動	荒川岳植生復元活動
8月			
9月		塩見岳・三伏峠植生復元活動 茶臼岳植生復元活動	
10月			荒川岳植生復元活動
11月	第2回理事会	環境省委託成果提出	
12月			
1月			
2月		静岡県委託成果提出	

(2) 受託事業

① 静岡県

- ・ 防鹿柵の維持管理（三伏峠、聖平、茶臼岳）
- ・ ヤシマットの敷設（聖平）
- ・ 登山者対策のロープ柵の維持管理（百間平、奥聖岳、聖平）
- ・ 植生変化のモニタリング

② 環境省

- ・ ヤシマットの敷設（塩見岳東峰山頂直下）

(3) 合同事業（共催）

- ① 講演会の開催（県、市、日本高山植物保護協会と共催）

(4) 単独事業

- ① オネット柵によるオサクラソウの保全（千枚小屋の下）

② インターネット上での情報発信

- SNS (Facebook) URL: <https://www.facebook.com/SAIpsVNW/>
- ホームページ URL: <https://kaz187315.wixsite.com/home>

3 活動状況

(1) 令和元年度の活動状況（コロナの影響を受ける前の活動例）

活動日	区分	場所	参加者 (延べ)	作業内容
4/29	県	三伏峠	★1人	調査（積雪状況調査）
5/ 2	県	茶臼岳	★2人	調査（登山道）
5/ 3	単独	鳥森山	2人	調査（積雪量、植生）
5/12	県	二軒小屋	★1人	調査（植生）
5/25	県	三伏峠	★6人	防鹿柵（金網）修繕
5/26	県	二軒小屋	★1人	調査（植生）
6/15	県	三伏峠	★6人	防鹿柵（化繊）立上げ
6/15～16	県	茶臼岳	★10人	防鹿柵（化繊）立上げ
7/13～15	県	聖平	★3人	調査（植生、ニッコウキスゲ開花）
7/16	単独	畑薙第1ダム	人	南アルプス山開き ※井川観光協会、井川山岳会主催
7/19～21	環境省	荒川岳	65人	防鹿柵（化繊）立上げ（L=1,050m）
	単独	千枚小屋		防鹿柵（化繊）立上げ（L=80m）
7/28	県	三伏峠	★2人	調査（植生）
8/10～12	県	茶臼小屋	★11人	防鹿柵（化繊）立上げ（L=250m）
8/17～18	県	荒川岳 千枚岳	★6人	調査（植生）
8/24～26	県	聖平 奥聖	★70人	防鹿柵（金網）修繕（L=345m） ロープ柵修繕（L=120m） 土砂流出対策
9/ 7～ 9	県	三伏峠	★3人	事前準備
	環境省	塩見岳		事前準備
9/14～16	県	三伏峠	★130人 （※）	防鹿柵（金網）修繕 防鹿柵（化繊）下ろし
	環境省	塩見岳		土砂流出対策
10/5～ 6	県	茶臼小屋	★10人	防鹿柵（化繊）下ろし
10/ 4～ 6	環境省	荒川岳	69人	防鹿柵（化繊）下ろし
	単独	千枚小屋		防鹿柵（化繊）下ろし

凡例 ★： ボランティア活動

※： 高校生20人、副知事視察を含む

4 表彰等

- | | |
|--|-----|
| ①平成21年度「みどりの日」自然環境功労者表彰（環境大臣表彰） | ※団体 |
| ②第10回中部の未来創造大賞 奨励賞受賞 | ※団体 |
| ③国際ソロプチミスト静岡 環境貢献賞（平成23年6月21日） | ※個人 |
| ④平成26年度自然公園関係功労者（環境大臣表彰）
ネットワーク会長 日々野重彦 | ※個人 |
| ⑤南アルプス国立公園関係功労者特別表彰 | ※団体 |

(5) ボランティアの派遣

- ①環境省・特種東海フォレストが主催する荒川岳植生保全活動へのボランティアの派遣

南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク 規約

(名称)

第1条 この会は、南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク（以下「本会」という。）という。

(目的)

第2条 本会は、南アルプスにおける高山植物の効率的かつ永続的な保護対策を推進するためボランティア活動を行うとともに、会員相互の連絡及び交流を図ることを目的とする。

(活動)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 利用者指導及び高山植物保護思想の普及啓発活動
- (2) 自然環境の調査
- (3) 美化清掃活動及び植生保護施設の設置及び修繕
- (4) 会員の資質向上のための研修会等の開催
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な活動

(活動年度)

第4条 本会の活動年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(活動計画)

第5条 第3条の活動が円滑に行えるように、年間活動計画を定める。

(会員)

第6条 本会の会員は、別紙に掲げる団体とする。

(入会)

第7条 本会に入会しようとする団体は、南アルプスの実情に精通し、高山植物保護対策を推進することができる団体でなければならない。

2 本会に入会しようとする団体は、入会申込書を会長に提出し、本会の承認を受けなければならない。

(退会)

第8条 会員は退会しようとするときは、その旨を会長に届け出なければならない。

2 会員である団体が解散したときは、退会したものとみなす。

(役員の数と職務)

第9条 本会に、次の役員等を置く。

- | | |
|---------|-----|
| (1) 会 長 | 1名 |
| 副 会 長 | 1名 |
| 理 事 | 若干名 |
| 監 事 | 1名 |
| 事務局長 | 1名 |

(2) 会長は、本会を代表し会務を総括する。

(3) 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは、その職務を代行する。

(4) 理事は、会の運営にあたる。

- (5) 監事は、会計及び会務の状況を監査する。
- (6) 事務局長は、会の事務処理及び会計を統括する。

(選任)

第10条 理事、監事は総会において選出する。会長、副会長は理事の互選による。

2 事務局長は、会長が指名する。

(任期)

第11条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- (1) 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第12条 会議は、総会及び理事会とする。

2 会議は会長が召集し、議長は会長があたる。

3 総会は、必要により開催する。

- (1) 事業報告及び決算報告
- (2) 事業計画及び収支予算
- (3) 会則の改廃
- (4) その他、会長が必要と認める事項

4 総会の議事は、出席者の過半数の同意により決するものとする。

5 理事会は、必要により開催し、会の運営上必要な事項を協議する。

(他の団体との協力)

第13条 本会は、他のボランティア団体等と協力して活動を行うように努める。

(活動経費)

第14条 活動に要する経費は、原則として会員の負担とする。

2 活動に必要な物品、資材等は、ボランティア活動支援事業をもって調達するように努める。

(事務局)

第15条 本会の事務局を会長の所属団体に置く。

(細則)

第16条 本会の運営その他必要な事項は、この規約に定めるもののほか、会長が定める。

附 則

- 1 この規約は、平成14年7月1日から施行する。
- 2 第4条の規定にかかわらず、平成14年度の活動年度は、平成14年7月1日から平成15年3月31日までとする。
- 3 この規約は、平成18年5月19日から施行する。
- 4 この規約は、平成19年6月9日から施行する。

参考 講演会の開催履歴

開催日	内 容	出席者数
H17. 2. 26	第1回「南アルプスを知ろう！」 講演：長谷川裕彦氏（明治大学講師） 『氷河地形について』	87
H18. 3. 12	第2回「南アルプスを知ろう！」（※以降、一般公開） 報告：聖平植生復元について（自然保護室） 講演：塩沢久仙氏（南アルプス芦安館館長） 『北岳を見続けて60年』 講演：小疇尚氏（元明治大学文学部教授） 『山に学ぶ』	176
H19. 3. 18	第3回「南アルプスを知ろう！」 講演：小泉武栄氏（東京学芸大学教授） 『山の自然学～日本アルプスを比較してみよう～』 講演：片桐氏（日本高山植物保護協会副会長） 『中央アルプスの自然と環境保全活動』	116
H20. 3. 9	第4回「南アルプスを知ろう！」 講演：朝倉俊治氏（静岡ライチョウ研究会 会長） 『南アルプスのライチョウ』 講演：元島清人氏（中部森林管理局） 『南アルプスの保護林におけるシカ被害』	138
H21. 3. 20	第5回「南アルプスを知ろう！」 講演：鵜飼一博氏（南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク） 『南アルプスにおける高山植物保護の取組』 講演：宮崎一夫氏（遠州自然研究会理事） 『お花畑の脅威と保護』	113
H22. 3. 14	第6回「南アルプスを知ろう！」 講演：泉山茂之氏（信州大学農学部准教授） 『南アルプスを越えるシカ』 講演：大場達之氏（元千葉県立中央博物館副館長） 『植生から見た赤石山系の特質』	93
H23. 3. 12	第7回「南アルプスを知ろう！」 講演：小嶋睦雄氏（静岡大学名誉教授） 「人と人との共生、人と自然との共生そして人と森林との共生」 —暮らしと「経済」と支えて来てくれた森と木はどこから— 講演：鵜飼一博氏（南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク） 「南アルプスにおけるボランティア活動の紹介」	※東日本大震災発生翌日のため、中止
H24. 3. 17	第7回「南アルプスを知ろう！」 講演：塩沢久仙氏（南アルプス総合学術検討委員他） 「南アルプスの今」 講演：富山裕一氏（長野県伊那市耕地林務課長） 「南アルプス食害対策協議会」の活動について 講演：鵜飼一博氏（南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク） 「南アルプスでどんな活動をしているの？」	92

H25. 3. 23	<p>「日本高山植物保護サミット」※静岡県は共催 講演：依光良三氏（高知大学名誉教授） 『三嶺（四国）におけるニホンジカの食害と植生保護対策について』 事例紹介及びシンポジウム</p> <p>① 有山義昭氏（中部山岳国立公園 自然保護官） ② 赤沼健至氏（燕山荘グループ 代表） ③ 杉本憲昭氏（北丹沢山岳センター 所長） ④ 中村 仁氏（南アルプス国立公園 自然保護官） ⑤ 鶴飼一博氏（南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク事務局） コーディネーター 白簀史朗氏（日本高山植物保護協会 会長、）</p>	202
H26. 3. 21	<p>第8回「南アルプスを知ろう！」 講演：工藤岳（北海道大学准教授） 『気候変動と山岳生態系-北海道大雪山系の事例を中心に-』 情報提供：興津卓伸（静岡市清流の都創造課） 『南アルプスが目指すユネスコエコパーク（生物圏保存地域）とは』</p>	110
H27. 3. 21	<p>第9回「南アルプスを知ろう！」 講演：清水准一（NPO 法人芦安ファンクラブ事務局長） 『北岳固有種キタダケソウの保護活動』 講演：鶴飼一博氏（南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク） 『南アルプスにおけるボランティア活動の紹介』</p>	90
H28. 3. 19	<p>第10回「南アルプスを知ろう！」 講演：渡邊修（信州大学農学部准教授） 『仙丈ヶ岳のシカ食害エリアにおける高山植生回復活動』 講演：仁田晃司（環境省南アルプス自然保護官） 『山岳環境の変化と保全』</p>	90
H29. 3. 18	<p>第11回「南アルプスを知ろう！」 講演：近田文弘（国立科学博物館名誉研究員） 『南アルプスの昔』 講演：岸本年郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授） 『南アルプスにおける昆虫相調査』</p>	91
H29. 5. 20	<p>第1回「南アルプスへ行こう！」 講演：小林篤（東邦大学理学部生物学科研究員） 『高山に生きる神の鳥、ライチョウ保護の最前線』 講演：掛川義孝（登山ガイド、元聖平小屋スタッフ） 『山小屋から見る南アルプス』</p>	101
H30. 5. 26	<p>第2回「南アルプスへ行こう！」 取組紹介： 鶴飼一博（南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク） 講演： 荒川史子氏（南アルプス愛好家） 『南アルプスを巡って』 トークショー『南アルプスのさまざまな魅力』 荒川史子氏 杉下健一氏（千枚小屋管理人） 唐橋佳代子氏（登山ガイド） 荒木麻里子氏（司会、フリーアナウンサー）</p>	135

R 1. 6. 8	<p>第3回「南アルプスへ行こう」</p> <p>一部 トークショー 望月将悟氏「ふるさとと南アルプスとTJAR」</p> <p>二部 講演 増澤武弘氏「南アルプスと世界の高山植物」</p> <p>三部 活動報告 鵜飼一博氏「南アルプスにおける保全と取組」</p> <p>写真展 TJARの写真やユニフォームなどを展示</p>	231
R2年度	コロナの影響による中止	
R3年度	春季開催は見送り（2～3月の開催については、別途協議）	
計		1,865

資料 お花畑の回復状況

1 聖平のニッコウキスゲ群落の回復（平成 30 年時点）

- ・平成 14 年、ニッコウキスゲ群落の回復に向け、試行的に防鹿柵を設置。4 年後の平成 18 年にニッコウキスゲの開花が初めて確認。
- ・平成 18 年 6 月に防鹿柵周辺において、ニホンジカに摂食されているニッコウキスゲの葉っぱを多数確認。ニッコウキスゲがあまり確認されなかったが、防鹿柵の設置しやすい木道脇に、平成 19 年に 2 基目を設置。3 年後の平成 22 年に柵内で開花。
- ・平成 25 年、最もニッコウキスゲの株が残っている登山道分岐点周辺（長野県側）に 3 基目を設置。3 年後の平成 28 年に開花を確認。
- ・平成 19 年に試行的に設置した小型防鹿柵の有効性及び耐雪性が確認できたため、大型の防鹿柵が設置が困難な場所については、平成 26 年より小型防鹿柵を本格的に設置。

表 聖平・薊畑の防鹿柵内のニッコウキスゲの開花株数

場所	設置年度	面積 (ha)	柵間長 (m)	ニッコウキスゲ開花株数															
				H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H29
聖平	H14	0.01	40 (10×10)	0	0	0	3	—	5	8	10	15	—	38	12	—	54	58	101
	H19	0.04	80 (20×20)						0	0	1	—	—	—	7	—	17	3	37
	H25	0.07	165												0	—	56	60	204
薊畑	H14	0.01	40 (10×10)	0	0	0	0	—	0	0	0	0	—	0	0	—	0	0	0
	H24	0.02	80											0	0	—	1	0	0
計		0.15					3	未調査	5	8	11	15	未調査	38	19	未調査	128	121	432

場所	設置年度	面積 (ha)	柵間長 (m)	ニッコウキスゲ開花株数 (ha 当たり)															
				H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H29
聖平	H14	0.01	40 (10×10)	0	0	0	300	—	500	800	1,000	1,500	—	3,800	1,200	—	5,400	5,800	10,100
	H19	0.04	80 (20×20)						0	0	25	—	—	—	175	—	425	75	925
	H25	0.07	0												0	—	800	857	4,200
薊畑	H14	0.01	40 (10×10)	0	0	0	0	—	0	0	0	0	—	0	0	—	0	0	0
	H24	0.02	80											0	0	—	50	0	0
計		0.15		0	0	0	150	未調査	83	133	183	750	未調査	475	127	未調査	853	807	2,880

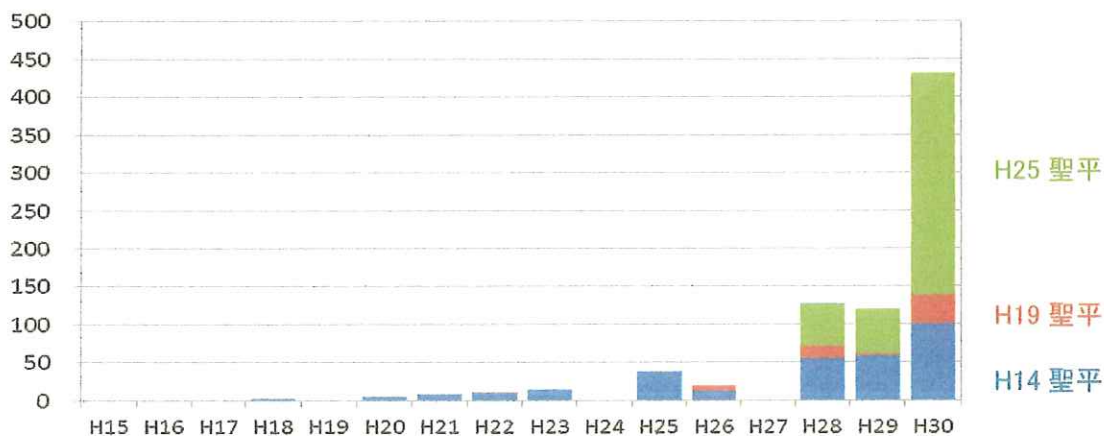


図 聖平・薊畑の防鹿柵内のニッコウキスゲの開花株数



H14 聖平防鹿柵内の植生

ニッコウキスゲの開花株数は、毎年わずかではあるが増加傾向にある。

柵内には、ミヤマシシウド、カラマツソウが優占している。



H25 聖平防鹿柵内の植生

部分的に見ると、かつてのニッコウキスゲ群落と同様な密度のところもある。

H14 防鹿柵内と違うところは、ニッコウキスゲ以外の高茎草本が生育していない。

→競争相手がいないため、短期間でニッコウキスゲが開花するまで回復したと思われる。



2-1 三伏峠の高茎草本群落の回復（平成 30 年時点）

- 平成 17 年、ニホンジカの採食影響により、お花畑が壊滅的状況にあることが確認された（県調査）。三伏峠小屋オーナーによると、この現象はここ数年の出来事とのこと。
- 平成 18 年より順次防鹿柵を整備。
柵設置後、13 年経過した結果、シシウドは草丈や生育数はかつての状態に近いと考えられるが、お花畑全体としてみた場合は、草丈や多くの種が混在していた状況には回復していない。



昭和 50 年代～平成 10 年頃？
高茎草本群落。
ミヤマシシウドが目立っている。

平成 17 年度
ニホンジカの不嗜好植物であるバイケイソウが点在する場所に変化

平成 30 年度
三伏峠の高山植物の代表種のひとつであるミヤマシシウドが回復してきている。
全体の草丈は低いが、種数は戻ってきている。ただ、種ごとによって生育範囲が分けられており、混在には至っていない。

2-2 三伏峠の高茎草本群落の回復（令和2年8月15日時点）

- ・金属製の柵中は、開花数は少なかったもののミヤマシシウドの占有面積が増加傾向にあった。特に西側の林縁沿いにはミヤマシシウドが多数生育しており、かつてのお花畑と同等の優先度に回復したと思われる。



写真 金属製防鹿柵内の状況（令和2年8月15日撮影）

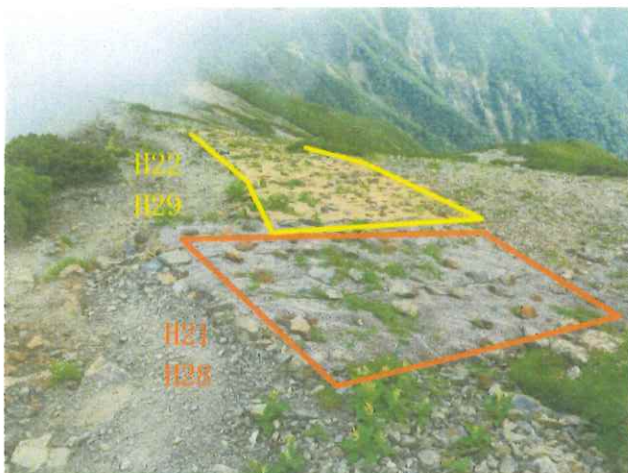
- ・ネット柵の中は、タカネマツムシソウの個体数が増えていた。
- ・雪解け後にネット柵の立ち上げをしてきた成果が表れてきている。



写真 ネット柵内の状況（令和2年8月15日撮影）

3 塩見岳東峰山頂直下水河跡地における植生回復（平成 30 年時点）

- 平成 17 年、ニホンジカの進出を確認。平成 19 年、裸地化の進行を確認。平成 21 年より高温滅菌処理済のヤシ繊維製マットにて伏工を実施。
 - 平成 21 年施工箇所において、植生回復が進んでいないことと、伏工が劣化してきていることから、再設置することとした。再設置時は、保温性をより確保（凍上凍結防止）のためにヤシマットを二重にした。
 - 二重にしたことで、植生回復がこれまで以上に進行している。
- ※二重にした効果としては、凍上凍結防止効果？夏の高温抑止効果？飛散種子の捕捉力の向上？



平成 28, 29 年度伏工施工箇所の植生回復状況



平成 29 年度伏工施工箇所の植生回復状況



平成 29 年度伏工施工箇所の植生回復状況

4 茶臼小屋周辺防鹿柵における植生回復（平成 30 年時点）

- 平成 20 年に小屋裏斜面に金属製防鹿柵（通年）を設置。
平成 26 年に小屋対岸の斜面にネット柵を設置し、季節金属製をネット柵に。
- ニホンジカの影響を低減させるために、雪解け直後の 6 月中旬にネット柵を立ち上げている。
- ニホンジカの進出は、聖平、三伏峠等よりも早かったと考えられているが、小屋のすぐ裏ということもあり、三伏峠のお花畑まで壊滅的な影響を受けていなかった。そのため、柵設置 10 年で多種混在のお花畑に回復したのではないかと思われる。

※平成 30 年、柵外においてニッコウキスゲ等ニホンジカの嗜好植物の開花が確認された。このことから、ニホンジカの影響が低下している（ニホンジカの個体数が減っている？）可能性がある。



平成 30 年

三伏峠と違い、全体として草丈が高く、多くの種が混在している。

バイケイソウ
ミヤマキンポウゲ
シナノキンバイ
ギョウジャニンニク
ニッコウキスゲ
カラマツソウ
カイタカラコウ
ミヤマシシウド
トリカブト
ハクサンフウロ
タカネグンナイフウロ
クルマユリ
ネバリノギラン
マルバダケブキ

令和 4 年 1 1 月 1 6 日

リニア中央新幹線の建設工事による環境影響に関する懸念などについて

南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク会長
西畑 武

1. 高山の動植物への影響について

○トンネルを作ることで水の流れが変わると考えられるが、水の流れが変わることで動植物や高山植物の生息地に変化が現れる。地下水位が300m低下するとの情報があるが、高山の動植物への影響はどのようなのか。

⇒ 環境の変化を科学的に実証していただきたい。

※高山植物にどのような影響を与えるのかについて、トンネルは1000mも下にあるので、影響はないのではないか。

2. モニタリングの重要性について

○一度壊れた自然を元に戻すことは容易ではない。不可能と考える。

○移植も考えられるが成功するかといえば期待は薄いといえる。

⇒ 移植などの保全措置を実施後、自然変位を将来にわたって観測していくことが重要。

3. ユネスコエコパーク等について

○ユネスコエコパークと認定されている南アルプスの自然は国民の財産。大切に残したい。

○南アルプスを世界自然遺産登録を考えるとときに自然破壊は登録が難しくなる。